

冬の沿道景観活用による地域協働事例 ～「シーニック de ナイト」のこれまでの歩みと今後の展望～

折谷 久美子*1 芳賀 達弘*2 伊藤 優*2 中村幸治*3

1. はじめに

シーニックバイウェイ北海道は、地域に暮らす人が主体となり、企業や行政と手をつなぎ、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりを目指す取り組みであり、2005(平成17)年よりスタート、2021(令和3)年10月末現在、13の指定ルート、3つの候補ルートがあり、約460団体が様々な活動を展開している。(図-1)

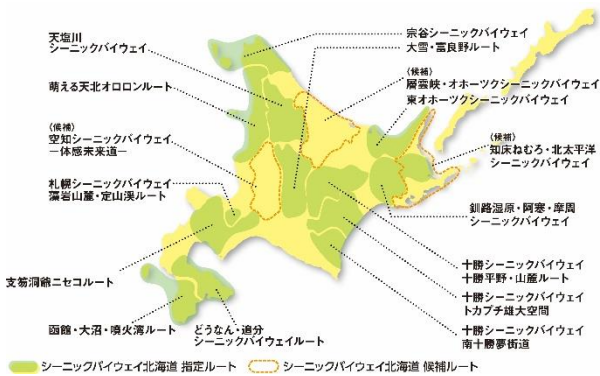


図-1 シーニックバイウェイ北海道ルート

私たちが暮らす「函館・大沼・噴火湾ルート」は、函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・八雲町から形成され、多彩な景観地域資源を有する地域にあり(図-2)、美しい景観の保全や地域住民と来訪者の交流を深める企画として、沿道等を舞台とした「シーニック清掃活動」、「シーニック de ナイト」等の様々なルート連携活動を展開している。



図-2 道南地域の位置図

本論文では、冬の沿道景観活用による地域協働事例として、函館・大沼・噴火湾ルートの連携事業の一つである「シーニック de ナイト」について、取り組みの背景や、実施状況、地域への普及・浸透状況等について報告するとともに、冬季沿道景観を活用した地域協働プロジェクトにおける今後の可能性、ルート間連携における課題とその展開方向等について考察した。

2. 取り組みの概要

函館・大沼・噴火湾ルートは、2006(平成18)年のシーニックバイウェイ指定ルートの認定を記念し、冬を楽しむ取り組みとして、手作りワックスキャンドルを活用したルート間連携イベント「シーニック de ナイト」を開催している。

取り組みの狙いとしては、シーニックバイウェイ北海道のキーワードである『連携(地域住民と活動団体と観光客など)』による「地域の活性化」や「広域にわたる連携・協力体制の構築」、そして「周遊観光の促進」などがあげられる。(表-1)

表-1 取り組みの概要

シーニック de ナイト	
対象ルート	函館・大沼・噴火湾ルート
実施期間	毎年2月上旬～下旬の週末に各地で開催
主催	シーニック de ナイト実行委員会
きっかけ	2006(平成18)年11月のシーニックバイウェイ本ルート指定をきっかけとし、指定記念事業として実施
特徴	各開催会場で、同じキャンドル(手作りワックスキャンドル)を使用すること
背景と狙い	<ul style="list-style-type: none"> ・ルート指定記念事業として、新たな連携活動の試行的実践 ・活動団体同士の連携(参加と協力)
目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ルート連携による取り組みの展開 ○シーニックバイウェイ北海道の普及 ○活動団体同士の参加と協力体制の構築 ○地域住民の参加による地域の活性化 ○観光客の参加による周遊観光の促進 ※多くの方々の参加によりキャンドルを作ることを楽しみ、灯りをつけることを楽しむこと

*1 NPO法人スプリングボードユニティ 21 *2 北海道開発局 函館開発建設部 道路計画課 *3 (一社)北海道開発技術センター

3. キャンドル製作及び各地の開催状況

函館・大沼・噴火湾ルート内の各地域で行われた取り組みについて、以下に実施状況を報告する。

(1) ワックスキャンドル製作体験会

毎年 2 月上旬～下旬の週末に各地で開催される「シーニック de ナイト」の事前準備として、12 月～1 月下旬にかけて、その年に使用するワックスキャンドル製作体験会を実施している。直近では、12 箇所で開催（函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・八雲町）した。

製作体験会では、各会場に設置するワックスキャンドルを実行委員会の構成団体メンバーや地元住民、観光客らが製作に携わる。具体的には、牛乳パックに溶かしたろうを流し込み、回転させながら冷やして固め、中が空洞になった角柱型キャンドルに仕上げていくという工程である。（写真-1,2,3,4）



写真-1 キャンドル製作会



写真-2 牛乳パックを回転



写真-3 キャンドルの冷却



写真-4 キャンドルの加工

(2) 函館新道会場

国道 5 号 函館新道において、道ゆくドライバーや函館を訪れた国内外の観光客の方々に「綺麗な冬の沿道景観」を見て、喜んでほしいというおもてなしの取り組み。初年度から活動継続されている会場である。（写真-5,6）

函館新道では、夏から秋にかけて植栽活動が行われており、これと同じ場所に設置された手作りのアイスキャンドルには、その花が使用されている。（写真-7,8）



写真-5 ハート型の設置



写真-6 小学生も多数参加



写真-7 国道沿道の演出



写真-8 押し花キャンドル

(3) 五稜郭公園会場

一年を通じて、国内外の観光客が多く訪れる五稜郭公園会場では、堀の外周が約 1.8km の散策路となっており、美しい星型がイルミネーションとともに浮かび上がる。公園の周遊路を散策しながら楽しむほか、五稜郭タワー展望台から見おろす景色は誰もが歓声をあげる。（写真-9,10,11,12）



写真-9 外周の散策路



写真-10 星形の稜線



写真-11 大学生も参加



写真-12 五稜星の夢

(4) 函館市 縄文文化交流センター会場

2021(令和 3)年 7 月、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産への登録が決定した函館市縄文文化交流センター会場では、同センターの駐車場や沿道に飾られた約 400 個のワックスキャンドルの明かりが雪上を優しく照らし、来場者とドライバーの目を楽しませた。（写真-13,14,15,16）



写真-13 道の駅の活用



写真-14 世界遺産の PR



写真-15 土偶を模したランタン



写真-16 土器型のキャンドル

(5) 函館市内のその他の会場

亀田八幡宮境内では、約 230 本のワックスキャンドルのほか、数多くの雪だるま等も製作し、来訪者ととも手持ち花火も楽しんだ。(写真-17)

シエスタハコダテ前では、五稜郭タワーまでの行啓通をワックスキャンドルが連なった。また、関連イベントとして、ファーマーズマルシェも開催され温かい野菜スープを販売した。(写真-18)

函館市地域交流まちづくりセンター周辺の函館でも歴史ある西部地区の沿道には、手作りの暖かなキャンドルの灯りが並び、地元の人々だけでなく、訪れた観光客も楽しんでいた。(写真-19)

函館朝市会場では、各店舗前や広場にそれぞれキャンドルを設置し周遊促進を図った。(写真-20)



写真-17 亀田八幡宮境内



写真-18 シエスタハコダテ前



写真-19 まちづくりセンター



写真-20 朝市会場

(6) 森町 オニウシ公園会場

道の駅「YOU・遊・もり」に隣接するオニウシ公園会場では、町民ボランティアの手づくりキャンドルによるライトアップフェスティバル「オニウシ雪ほたる」という関連イベントを実施した。道の駅では、森町の特産品の販売等、訪れた方々への各種サービスを展開した。(写真-21,22,23,24)



写真-21 道の駅からのアプローチ



写真-22 幼稚園児の作品



写真-23 色とりどりのランタン



写真-24 メイン会場

(7) 北斗市 矢不來天満宮神社会場

北斗市の矢不來天満宮神社では、事前にキャンドル製作体験会を開催した。当日は、菅原道真公を祀る由緒ある天満宮の参道に、ほのかな明かりが灯る光景は非常に幻想的だった。(写真-25,26)



写真-25 境内の参道



写真-26 参道入口の設え

(8) 七飯町 七飯スノーパーク会場

七飯町のスノーパークでは、「雪育プロジェクト」との連動により、たいまつ滑降と合わせて実施した。たいまつ滑降参加者 20 名は、チームワーク良くゲレンデを幻想的に滑ることができ、スタッフと初開催のお客様が一体となる素敵なイベントとなった。(写真-27,28)



写真-27 コース上のキャンドル



写真-28 たいまつ滑降

(9) ナイトウォーク in 函館新外環状道路

2021(令和3)年3月に開通した函館新外環状道路の開通記念プレイベントとして、「新外環を歩こう! ナイトウォーク in 函館新外環状道路」を3月12日に開催した。コロナ対策をしながら、函館の夜景とともに開通直前の道路本線上を歩く貴重な体験は、家族連れなど50組140名の一般参加者に大変好評だった。(写真-29,30)



写真-29 本線上の散策



写真-30 夜景フォトスポット

4. 活動の評価(ベストプロ2019最優秀賞受賞)

ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクトは、シーニックバイウエイ北海道の表彰制度で、他の模範となり将来への発展性が高く評価出来る活動を選出、表彰する取組として2008(平成20)年度から実施されている。令和2年11月に開催され

た「第17回シーニックバイウェイ北海道推進協議会」において、函館・大沼・噴火湾ルート「函館新道『花いっぱい活動』及び『シーニック de ナイト』」の一連の取組みが「ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト 2019」の最優秀賞、美しい景観づくり賞を受賞した。この受賞により、私たち地域活動団体の取組みが対外的にも評価されたことや今後の継続展開に向けて、大きなモチベーションとなる大変嬉しい出来事であった。(写真-31,32)



写真-31 表彰式の様子



写真-32 関係者一同

5. 取り組みの効果

「シーニック de ナイト」のこれまでの取り組みを通じて、実行委員会メンバー及び地域活動団体、イベント参加者等に対するヒアリング等から、以下のような効果があげられた。

- ・年々、回を重ねるごとに参加者の拡大や道南地域へのプロジェクト自体の認知度が着実に広がっている。
- ・夏場の植栽活動が行われている場所に設置された手作りのアイスキャンドルには、その場所で咲いていた花が使用されるなど、一年を通じた沿道美化活動に繋がっている。
- ・この取り組みには、数多くの年齢層が積極的に関わり、小学校の児童や PTA も参加するなど、世代を超えて活動の参加を楽しんでいる。
- ・当初参加の無かった自治体や会場等が、それぞれの自前のイベントとの連携により新規加入するなど、活動の輪が広がっている。
- ・継続的な取り組みが評価され、「ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト 2019」の最優秀賞、美しい景観づくり賞を受賞した。
- ・シーニックマスクの配布や距離を保った形式でのキャンドル点灯等により、コロナ禍においても活動が継続できることが実証された。

6. 今後の展開方策についての考察

冬の沿道景観活用による地域協働事例として、函館・大沼・噴火湾ルート「シーニック de ナイト」について、取り組みの背景や実施状況、地域

への普及・浸透状況等について報告した。冬季沿道景観を活用した地域協働プロジェクトにおける今後の可能性、ルート間連携における課題とその展開方向等について考察する。

(1) 参加しやすい仕組みづくり

論文で報告した冬の沿道景観活用による地域協働活動事例である「シーニック de ナイト」は、回を重ねる毎に道南地域の取り組みとして定着してきた。また、商工会青年部や PTA 等の積極的な参画など、地域に密着した構成と運用体制についても徐々に構築されてきたものと考えられる。

一方で、各会場の情報収集や事務局運営は、ボランティア的な活動が前提となるため、当面はそれぞれの主体ができることを継続していくといった視点が重要であり、コロナ禍においても地元の方々や観光客が参加しやすい仕組みづくりについてのさらなる検討が必要である。

(2) 広域によるルート間連携に向けて

シーニックバイウェイ北海道では、当該ルートを除く道央・道南ブロックの 3 ルート（支笏洞爺ニセコルート、札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート、どうなん・追分シーニックバイウェイルート）において、それぞれのスタイルで冬の沿道を演出する取組みが展開されている。

今後は、道央・道南ブロック共通のポスターや SNS 等、広域によるルート間連携の広報・周知についての検討及びさらなる展開が必要である。各種広報手法の今後の充実を図っていくためには、運用体制の強化も必要となることから、最低限度の運用経費を確保するための収益事業等についても今後検討していく必要がある。函館・大沼・噴火湾ルートや支笏洞爺ニセコルートでは、道路協力団体制度を活用して物販展開するなど、徐々にその兆しも見えてきている。

7. おわりに

地域の方々や来訪者がキャンドルの灯りで冬の沿道景観を彩り、一緒に楽しむ取り組みとして始まった「シーニック de ナイト」は、シーニックバイウェイ北海道における冬のプロジェクトとして、着実に地域に定着している。また、関係者や国内外の来訪者から今後の継続が望まれていることから、シーニックバイウェイらしい“無理をせず、楽しく”をモットーに冬の沿道景観活用による地域協働がゆるやかな連携を図りながら、徐々に北海道全体に広がっていくことが期待される。